



12月の園だより

平成30年12月1日

学校法人志賀学園

平第二幼稚園

冬の到来とはいえ比較的穏やかな日が続き、子どもたちは毎日元気に園庭で遊んでいます。さくら組さんは、体操教室で取り組んでいる縄跳びに夢中です。縄跳びはリズムを覚えるとどんどん上達していき楽しくなり「先生、数えて!」と、皆生き生きとした表情で跳んでいます。

先日2025年の万博開催地が大阪に決定され、東京オリンピックに次いで日本中が歓喜に包まれました。そこに至るまでには様々な方々の、多方面に渡る測り知れない苦労や努力があったことでしょう。その1つとして、決定された次の日の新聞の社説に次のような記事が掲載されていました。

『マジンガーZやゴルゴ13を生んだ国に憧れて、18年前にスペインから日本に移住したイバイ・アメストイさん(41歳)は、当時は夢にも思わなかったはずである、日本の一大事(万博開催地を決める最終のプレゼンで登壇)で大役を担うことになったそうです。そこでイバイさんは、東京から会社を移転した折に、大阪の人から「大丈夫やで、兄ちゃん!」という言葉をかけられ、その言葉に助けられたと、大阪の人情を語ったそうです。見知らぬ地で社員3人、お金も信用もない。それでも周りの人たちは「大丈夫やで、大丈夫やで!」と様々、助力してくれたそうです。イバイさんにとって「大丈夫やで!」は魔法の言葉に思えたのでしょうか。「お・も・て・な・し」ほど、カッコ良くはないけれど、泥臭く、サービス精神にあふれる大阪人の逸話は、きっと各国代表の胸に響いたに違いなかったことでしょう。そして、大阪で55年ぶり、2度目の大規模な万博の開催が決まりました。イバイさんの会社は今、120人ほどの社員を抱え、その国籍は26か国にも及んでいます。』

という内容で、記者は高度成長期でもない今時、万博開催までの心配の種も尽きないと思うが、関西の力を信じてみたい。と締めくくっていました。私の知人には、55年前に大阪万博で「月の石」を見て、科学に目覚め科学に関連した職業に就いた人もいます。それだけに、今回のオリンピックと万博の機会に恵まれる子どもたちにとりましては、将来の興味・関心につながる絶好の機会となりますので、ご家族皆様で応援して頂ければと思います。

さて、12月2日は生活発表会。子どもたちは合同保育を行う中で、お友だち同士刺激し合っていて意欲的に練習に励んでいます。子どもの可能性は無限で、今では全てのお遊戯や劇を覚え、お友だちの曲がかかると自然に体が動きだし、お部屋全体が活気に満ち溢れています。いろいろな体験ができることが集団生活の醍醐味であり、学校へ行ってからの活動の源にもつながります。ほとんどのお子さんは当日の発表を楽しみにしておりますが、前日の夜や当日の朝など、「上手に踊れるかな?大きな声でセリフを言えるかな?」と心配されるお子さんもいるかと思えます。その時は、「大丈夫だよ!楽しみにしてるからね。」と笑顔で答えてあげてください。そして、当日は温かいまなざしでご覧いただき、大きな拍手をお願い致します。